➢ 救命救急センター

三重県四日市市に位置する三重県立総合医療センター救命救急センターは、北勢地区の救急医療を支える中核施設として、高度かつ包括的な急性期医療を提供しています。地域における「最後の砦」としての役割を担い、重症外傷、心肺停止、重症感染症、急性中毒、脳血管障害、急性冠症候群など、生命に直結するあらゆる緊急疾患に 24 時間 365 日体制で対応しています。

当センターの特徴は、救急外来から集中治療室（ICU）までを一体化したシームレスな診療体制にあります。初療から集中治療に至るまで同一チームが継続して診療を担当することで、迅速かつ質の高い医療を実現しています。救急専門医・集中治療専門医を中心に、看護師、臨床工学技士、薬剤師、放射線技師、検査技師など多職種が連携し、患者一人ひとりに最適な治療を提供しています。

特に、重症感染症や多発外傷といった高度な全身管理を要する症例の診療に積極的に取り組んでおり、敗血症や重症肺炎などの感染症に対しては早期診断と迅速な集学的治療を行い、集中治療室において全身管理を徹底しています。また、多発外傷に対しては初期診療から外科的治療、集中治療に至るまで一貫したチーム医療を実践し、救命率の向上に努めています。

さらに、特定行為研修を修了した看護師を積極的に活用し、医師の業務の一部を担うタスクシフトを推進しています。これにより、迅速な処置や継続的な患者管理が可能となり、医療の質と安全性の向上に寄与しています。同時に、医師の負担軽減にもつながり、持続可能な救急医療体制の構築を進めています。

また、院内迅速対応システム（Rapid Response System：RRS）を構築し、院内で急変の兆候を示す患者に対して早期介入を行う体制を整備しています。 これにより重症化の予防や院内心停止の減少を目指し、病院全体の安全性向上に貢献しています。救命救急センターが中心となり、多職種が連携して院内急変対応の質を高めています

災害医療においても重要な役割を担っており、気管災害拠点病院として多数傷病者の受け入れ体制を整備しています。DMAT としての活動を通じて、県内外の災害現場で迅速な医療支援を行っています。

加えて、脳死下臓器提供にも積極的に取り組み、終末期医療における重要な選択肢として適切に提示できる体制を整えています。 患者と家族の意思を尊重した医療の実現に努めています。

このように当センターは、高度急性期医療と地域連携、教育、災害医療を担う拠点として、三重県の救急医療を支え続けています。今後も質の高い医療の提供を通じて、地域住民の生命と健康を守る役割を果たしていきます。

◆特定集中治療室の治療実績　（2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）

ICU 入院患者数：462

内訳	件数
人工呼吸器使用患者数	295
血液浄化療法実施患者数	12
体温管理療法実施患者数	10
ECMO 実施患者数	7
頭蓋内圧(ICP)測定実施患者数	3
脳死下臓器提供実施患者数	1

◆救急外来の診療実績　（2025 年 1 月 1 日～2025 年 12 月 31 日）

救急車収容数：6,378 件

救急車応需率：97.60％

年間重篤患者数：1,045 件

内訳	件数
病院外心停止	179
重症急性冠症候群	109
重症大動脈疾患	13
重症脳血管障害	111
重症外傷	346
重症急性中毒	6
重症消化管出血	35
敗血症	49
重症体温異常	20
重症呼吸不全	103
重症急性心不全	41
重症意識障害	16